



文化財保護センターだより

第23号

平成10年11月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1

TEL 058-237-8550(代)
FAX 058-237-8551

●もくじ

表紙	古代飛騨人のくらしにタイムスリップ ……1	セオ・ニュース	速報展のご案内 ……7
行事	タイムスリップ探検隊を終えて ……2	トックス	砂行遺跡出土の鏡 ……8
調査	各発掘現場より ……3,4,5	まとめ	センター日誌 編集後記 ……8
行事	報告会レポート ……6,7		



ひだびと 古代飛騨人のくらしにタイムスリップ

夏休み恒例行事となっていますタイムスリップ探検隊が、8月5日古川町^{なご}太江遺跡において行われました。3年ぶりに飛騨地域で開催することになり、県内各地から14家族30名の探検隊員が集まりました。発掘現場では、「土器や瓦^{かわら}がでてこないかなあ。」と額に汗しながら、慣れないねじり鎌を使って作業する姿が見られました。また、拓本^{たくほん}作業や遺物の洗い^{いぶつ}作業では、模様などの特徴を注意深く観察する目も養われたようです。これらの体験を通して、少しですが、古代の人々のくらしに迫れたのではないかと考えています。

第7回 タイムスリップ探検隊を終えて

行事

当日は不順な天候でしたが、予定していた活動（発掘作業、拓本作業、洗い作業）を無事行うことができました。

遺物を見つけての大歓声。珍しい土器の模様をじっと見つめる目。探検隊のみなさんの真剣な様子が伝わってきます。探検隊員のみなさんの感想をここに紹介します。

タイムスリップ探検隊員体験レポート 嶋沼 謙介 小5年

はじめはどんなことをするんだろう途中でおな
かすいたりしないかなあと思ってドキドキし
ました。でも おわてふりがえってみると、
いはい土器のはへんがでてきたので
とてもうれしかったです。それにお母さん以外
の女の子ともいっしょに話がてきたし写真
もとれました。お母さんもむちうになてや
ていました。一番はじめはわたしが
いはいみつけたけど、あとはお母さん
がいはいみつけました。お母さんは何んて
も楽しいと言っていました。
わたしもどれも全部楽しんで
たです。とてもいい思い出
になりそうです。

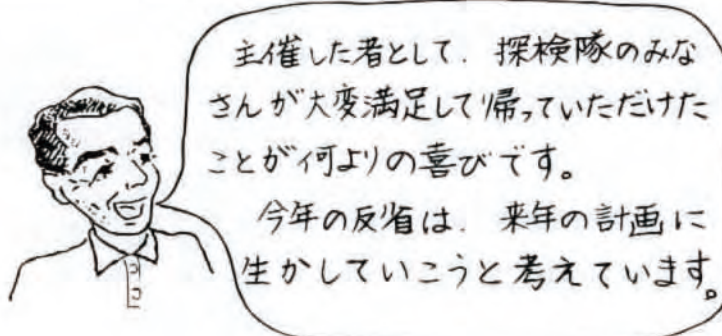


タイムスリップ探検隊遺物観察ノート

*できるだけじっくり観察し、遺物（土器や石器）の持ちようをくわしくまとめよう。

古川西小 5年

持ちようをとらえて、遺物の絵を描こう！	遺物の観察表（あいているところは自分で書こう！）
	気づいたことをメモしておこう。
	色 茶色っぽくて少し黒いところもあ
	形 四角だけどおれれているので、まごぼ
	まごぶり ぼこぼこしていて、こめさう。
	ちよう うかみもないまいているところがほ
	実さ け、こら軽かた。



掘っても掘ってもなかなか遺物が出てこなくて、少しあせり気味になっていたところ、小さなうわ葉がぬってあるようなかけらを娘が掘り出したとき、すごくうれしくていろいろと想像してみました。それから何個か出てきて、初めての体験でとても楽しかったです。どうもありがとうございました。

新聞、本、テレビ等で遺跡の情報を知りますが、今回は実際に体験してみても一部の知識かもしれませんが、少しは身近に感じられ、興味も増すと思います。

古川町 保護者の方

長男の夏休みの自由研究の課題として今年「大昔の暮らし」にしたよと聞いて、今年の探検隊に応募しました。

このあと、静岡県の登呂遺跡にも行く予定がありますが、今回の探検隊では実際に自分の手で発掘から拓本まで行うことができ、目で見学するだけに比べ、100倍以上の感動がありました。

長男も珍しい古銭を見つけてとても喜んでいました。

今回の探検隊を終え、遺跡を知るにとどまらず、文化財保護という事柄についても普段興味はなかったのですが、その重要性また関係者の方々のご苦労を知るとともにわずかではございますが、その一部をお手伝いすることができ、貴重な体験ができました。本日は本当にありがとうございました。

真正町 保護者の方

発掘調査現場から続々と成果届く



■岩井谷遺跡 (揖斐郡春日村)

本遺跡は、揖斐郡春日村美東の尾西集落西部に位置する遺跡です。この遺跡は尾西谷と岩井谷の合流点に伸びる小扇状地状の緩やかな斜面にあり、南北約150m東西約300mの範囲に広がっています。



今年度は昨年度に続き、遺跡の南側を中心とした範囲を調査しています。この遺跡からは縄文時代の遺物が多く出土しています。今年度調査区では、そのほとんどが縄文時代中期（今から約5,000年前～4,000年前）以降で、縄文時代後期（今から約4,000年～3,000年前）の土器も一部含まれています。



また、石囲い炉を持つ住居跡（左写真）やその一部分と思われる跡がいくつか見つかり、そこからは、多数の土器片が重なるように出土しています。

石の道具も含まれ、石の表面を磨いた磨製石斧（石の斧）や石さじ（皮をなめすための道具）、石鏃（矢じり）、石錘（石のおもり）なども多数見られます。このあたりに長い間、縄文人が生活していたと考えられます。



岩井谷遺跡の発掘調査の様子

■佐口遺跡 (美濃加茂市山之上町)

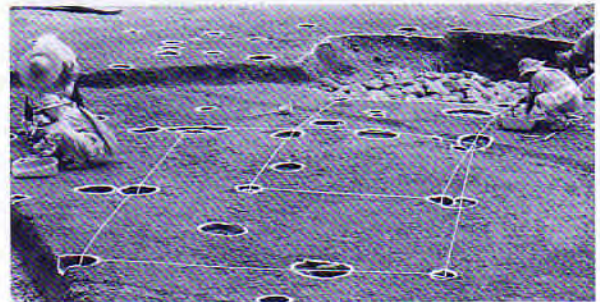
佐口遺跡は、美濃加茂市山之上町の南部、国道418号線北側のゆるやかな斜面上に位置しています。東海環状自動車道建設に伴い、約1万㎡の発掘調査を実施しています。



昨年度に実施した試掘調査によって、この地域には古墳時代から室町時代にかけて集落が営まれていたことがわかりました。現在、遺跡の中心部分の発掘調査を行っています。これまでに、主に奈良時代ごろと、鎌倉～室町時代ごろの集落の跡が見つかりました。

奈良時代ごろの住居は、地面を一辺3～4mのやや丸みのある四角の形に掘りくぼめてそこに柱を立てて屋根をふいて作る竪穴住居です。これまでに5軒の竪穴住居跡の調査を行いました。いずれも住居内の北西側の壁ぎわに煮たきをするためのかまどを設けていることがわかりました。

時代がくだって鎌倉～室町時代ごろの集落では、竪穴住居にかわって、掘立柱建物という構造の住居が主流となっています。これは直径30cmくらいの円形の穴を等間隔に掘って柱を立て、その上に屋根を設け、柱と柱の間に壁を作る構造の建物です。柱の並び方が復元できる掘立柱建物跡は7軒見つかりました。それ以外にも柱穴は1000基ほど見つかりました。鎌倉時代から室町時代にかけての時期に、長期間にわたってこの地に人々が集落を営んで生活していたことがうかがえます。



掘立柱建物跡の発掘作業の様子

■ホヤの木古墳 (恵那郡坂下町)

ホヤの木古墳は、恵那郡坂下町中央を南北に走る丘陵上に位置しています。

この古墳は、大正年間及び終戦直後に石室内部が発掘されており、このときの出土品が町教育委員会で保管されています。副葬品として納められていた須恵器坏蓋の形態から、この古墳は、7世紀初め頃(古墳時代後期)に造られた地方豪族の墓と思われる。

今回の発掘調査は、道路建設工事により消滅してしまう古墳の姿を、記録に残すために行ったのですが、石室の内部には副葬品などは残っていませんでした。しかし、古墳の周囲から土師器片や須恵器片が出土し、以前の発掘の際に石室内部にあったものが土とともに捨てられていたと思われる。石室は無袖横穴式石室と呼ばれる形のもので、玄室(遺体を安置した部屋)と羨道(玄室への通路)の間に明確な境(袖)を持っていませんが、羨道の部分は入り口に向かって少しずつ幅が狭くなっています。

他にも縄文土器片や打製石斧、石鏃が古墳の周辺から出土していますが、この中で打製石斧が特に多いことから、縄文時代の植物食料(イモ類)を採集した場所であった可能性を考えるとされます。



ホヤの木古墳石室の様子

■大坪遺跡 (美濃加茂市蜂屋町)

美濃加茂市の市街地から3kmほど北へ向かうと柿で有名な蜂屋町があります。この町の丘陵に大坪遺跡があります。遺跡は階段状に田や畑が作られている洞の突き当たりに位置します。現在の集落から30mほど上ったところです。

発掘調査により、現在の地表面から約1mほど掘り下げました。すると、直径が30~50cmの穴が150基以上見つかりました。これらの穴をさらに掘っていくとその中から、直径20cmくらいのが出てきました。これは昔の人々が建てた家の柱の一部でした。発掘作業のときには、いつも湧き水があり、排水に苦労しましたが、この水のおかげで昔の人々が建てた柱が幸運にも残ったのです。見つかった柱は全部で6本です。そのうち一つには、ほぞ穴があいていました。

この遺跡からは、山茶碗という鎌倉時代から室町時代頃に一般庶民が食事に使っていた器や、中国から輸入した青磁碗という庶民にはちょっと手の届かない茶碗も出土しています。

狭い調査区の中で2000点もの陶磁器が出土したことから、大坪遺跡には、多くの人々がこの地で生活を営んでいたことがわかりました。

発掘によって、昔の人々が暮らしてきた様子が明らかにされていきます。発掘にはロマンが感じられます。



穴の中には柱が……

大坪遺跡発掘作業の様子

と き ぐちにしやま こようあと (と き と き つ)
■土岐口西山古窯跡 (土岐市土岐津町)

土岐口西山古窯跡は、多治見市と土岐市の境付近を走る国道19号線の南側の丘陵上にあります。この古窯跡は平安時代に尾張から美濃地方にかけて数多く営まれた灰釉陶器の窯跡の1つです。



調査は6月の中旬から8月の初めにかけて行いました。初めは窯の本体を調べる予定だったのですが、緑地帯として保存される場所にあるため、灰原（窯から掻き出した灰の層）の一部と失敗作として捨てられた遺物の層のみの調査となりました。今回の発掘では多くの灰釉陶器が見つかりましたが、灰の層が薄くあまり広がっていないため、ほとんどの遺物が斜面を転がり落ちるなどして動いた遺物と考えられます。また細かい破片が多く、1つの個体になるものは少ないようです。種類としては碗・皿・瓶類などがあり、大きさや形でそれぞれいくつかに分けることができます。その他、窯詰めを行うときに台として用いた焼台も多く見つかっています。

発掘により古窯跡がある場所もほぼ限定することができました。今回の発掘の成果といえるでしょう。



発掘風景
 (畦を残して掘り下げているところです。)



いぼつ
 遺物出土状況
 (中央左にあるブロック状の塊が焼台です。)

たいえ (よしき)
■太江遺跡 (仮称) (吉城郡古川町)

この遺跡は、宮川の支流太江川右岸の高台にあります。今回の発掘調査は、県道の改良工事に伴うものです。工事予定範囲が広いので、遺跡名は仮称です。現道の周辺は、畑や水田が広がっています。



中央部に位置する寿楽寺の周辺は、左近廃寺跡と呼ばれ、白鳳時代の瓦が出土した地点です。また、周辺には縄文時代の遺跡や古墳群があります。

発掘調査は、いくつかの地区に分けて進めています。今年度は、C地区およびE地区の約2000㎡を調査しています。E地区では、7～8世紀の竪穴住居跡3軒とピット80基が検出されています。ピット群のなかには、掘立柱建物の跡と考えられるものもあります。

出土遺物としては、須恵器や土師器などがあります。また、平瓦・丸瓦・軒丸瓦などの瓦も出土しています。軒丸瓦は今までに寿楽寺の周辺で見つかったものと同じ型のものがあり、白鳳時代のものと考えられます。その他に、古墳時代や縄文時代の遺物も少量ですが出土しています。

瓦の出土状況から、古代の寺院が存在した可能性が高くなったと言えます。



出土した軒丸瓦

'98岐阜県新発見考古速報

県内各地29市町村53遺跡で発掘調査

— 平成10年度岐阜県発掘調査報告会 —

行事

平成9年度は、県内29市町村53遺跡で発掘調査が行われました。その調査結果が「'98岐阜県新発見考古速報」として、7月18日各務原市視聴覚センターにおいて発表されました。

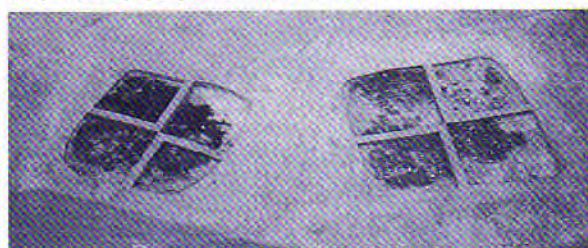
また、当日は三重大学名誉教授の八賀晋氏による「最近の岐阜県の発掘調査を振り返って」と題する講演があり、約200名の参加者は報告者の説明や講演に熱心に耳を傾けていました。

■顔戸南遺跡(可児郡御嵩町顔戸)

岐阜県文化財保護センター 小野木 学氏

古墳時代(4~5世紀)・古代(8世紀前後)・中世(12~13世紀前半)の大きく3時期の遺構・遺物が検出された。古墳時代では溝8条・掘立柱建物跡8棟・竪穴住居跡8軒・竪穴状遺構1基・水田などが検出され、土師器・須恵器・木製品などが出土した。

調査の主な成果として、県内初の古墳時代の堰が発見され、当時の灌漑施設のあり方がわかったことがあげられる。(きずな22号表紙参照)



2軒の焼けた竪穴住居跡

■檜遺跡(大垣市檜町)

大垣市教育委員会 鈴木 元氏

平安時代~中近世にかけての遺跡。鎌倉時代の遺構群は、12~13世紀初めの比較的短期間の生活の痕跡である。出土遺物には、土器類・木製品・農具などがある。土器は、鎌倉時代の区画溝から山茶碗・かわらけなどの食器類が出土した。山茶碗のなかには底部に墨で文字の書かれたものも約30点含まれている。その他には箸・下駄・鋤先がある。

また、素掘りの井戸が5基、噴砂と呼ばれる地震の痕跡も確認されている。



山茶碗・土師器皿出土状況(鎌倉時代:区画溝)
(写真提供 大垣市教育委員会)

■砂行遺跡(関市下有知字砂行)

岐阜県文化財保護センター 成瀬 正勝氏

弥生~奈良時代を中心とする遺跡で、古墳4基、竪穴住居跡62軒、掘立柱建物跡2棟、大溝1条、火葬墓1基などを検出した。

このうち砂行1号古墳は、古墳時代中期の造り出し付き円墳で、2つの埋葬施設が確認され、銅鏡や鉄製武器が発見された。関市周辺の首長墓の性格を考えると、貴重な資料を得ることができた。

また、この古墳とほぼ同時期に営まれた大溝での水辺の祭祀は、この地域の首長層による農耕儀礼としてとらえられる。首長墓と水辺の祭祀遺構が一連のものとして検出された数少ない調査例として注目される。



砂行1号墳の外観

■熊田山北古墳群(各務原市蘇原東島町2)

各務原市埋蔵文化財調査センター 大熊 茂弘氏

今回の調査では4基の古墳を確認した。このうち1号墳は残存状況も良好で、特異な構造と豊富な遺物が出土し、注目される。

1号墳では、2つの主体部の構築に伴う古墳の改築と、その時々における祭祀の過程をうかがう資料が得られた。また、2つの主体部からは数多くの遺物が出土している。須恵器から5世紀後半~末の年代が考えられるし、第1主体部からは1,700点を越すガラス小玉や、装飾付素環頭大刀が出土し、被葬者の権威をうかがうことができる。



1号墳第1主体部遺物出土状況
(写真提供 各務原市教育委員会)

講演「最近の岐阜県の発掘調査を振り返って」

三重大学名誉教授 八賀 晋 氏

昭和30～40年代、遺跡の調査はその存在を確認することが中心であった。その後、発掘の規模は少しずつ拡大し、大規模開発に伴うという矛盾をもちながらも、発掘成果が歴史の1コマとしての位置づけを獲得してきた。県内の発掘調査では例えば弥勒寺東遺跡や砂行遺跡など「ムゲツ氏」との関連で考察され、大きな歴史の視野の中で1つの遺跡がとらえられるようになり、成果もあがってきており、敬意を表する。

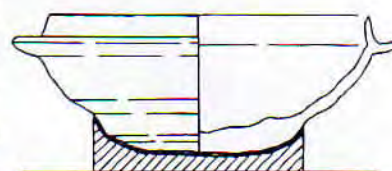
最近の研究の成果～須恵器生産にかかわって～

須恵器はロクロでどのように作られたのであろうか。ロクロ台の上に単一個体分の粘土を直接おいて、どのようにロクロ成形するのかについての研究は今まであまりなされていないが、平坦であると考えられるロクロ台の上に直接粘土を置いて成形したものとは考えが

たい。

それを解明する手だてとして、須恵器の底部に残された様々な痕跡を丁寧に観察するのが有効である。7世紀代の須恵器杯底部に残された円形で厚みのある突出部が技法を復元する上で重要である。この痕跡は、ロクロの上に置かれた木製の置き台によって残されたもので、置き台をロクロの上に設置することで、成形時に指を底部付近にまで入れることができ、また大量に同一規格の生産が可能となるのである。

須恵器底部の突出部は、従来異なった意味でとらえられたり、軽視されてきたものであるが、須恵器



置き台模式図

を生産する上で重要なものといえる。このように視点や発想を変えて丁寧に観察することで、これまで見落とされてきた歴史を復元することが可能となる。

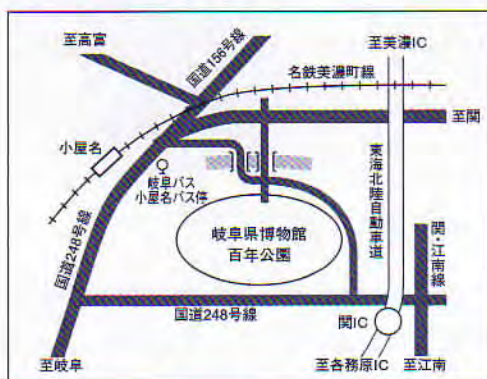
センターニュース

◎発掘速報展のご案内



(財)岐阜県文化財保護センター主催の発掘速報展を以下の要領で開催します。大変寒い時期に開催しますが、たくさんの方のお越しをお待ちしております。

- 【日 時】 平成11年1月13日(水)～1月31日(日)
- 【場 所】 岐阜県博物館
岐阜県関市小屋名小洞1989



- 交通のご案内
- 名鉄美濃町線 小屋名駅下車
 - 岐阜バス 小屋名駅下車
 - 百年公園北口駐車場有り(有料)

【内 容】 ○平成8・9年度の発掘現場から出土した遺物の陳列
＜陳列する主な遺物＞

- ・馬具、大刀、須恵器(池田町南高野古墳)
- ・縄文土器(藤橋村塚奥山遺跡)
- ・縄文土器(春日村細野、梨子谷、宮上遺跡)
- ・縄文土器(関ヶ原町小関御祭田遺跡)
- ・古墳出土鏡、住居跡出土破鏡(関市砂行遺跡)
- ・土偶、土版、壺棺墓(美濃加茂市野笹遺跡)
- ・須恵器、土師器(御嵩町顔戸南遺跡)
- ・瘤付き土器(小坂町湯屋遺跡)
- ・縄文土器(丹生川村たのもと遺跡)
- ・縄文土器、琥珀玉(丹生川村丸山遺跡)



南高野古墳出土馬具

○講演会の実施

- 【日時】平成11年1月17日(日) 13:30～
- 【場所】岐阜県博物館ハイビジョンホール
- 【講師】岐阜大学助教授
早川 万年先生
- 【演題】「クニから郡へ
—古代美濃・飛騨の地域社会—」

- 【問い合わせ先】 (財)岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1
058-237-8550(代)

■鏡の破片のペンダント

トピックス



この写真は、銅で作られた鏡の破片を拡大したものです。関市下有知にある砂行遺跡の弥生時代終わり頃（3世紀）の竪穴住居から発見されました。大きさは最も大きい辺で2.2cm、厚さは1.1mmで、非常に小さな破片です。

この破片には、龍（青龍）の模様と「真」の文字の一部が読みとれます。この模様と文字から、後漢の時代に作られた「方格規矩四神鏡」と呼ばれる直径20cmほどの丸い形をした鏡と考えられます。弥生時代の中国大陸からの輸入品です。

砂行遺跡では、鏡としてこれを使ったのではなく、破片に小さな穴をあけ、さらに破片の割れ口をなめらかに磨いてペンダントにしています。おそらく、砂行遺跡の集落（ムラ）の有力者の持ち物であったと思われます。

こういった銅の鏡の破片をペンダントにした例は、東日本ではめずらしく、特に東海地方では初めてで、貴重な発見となりました。

編集後記

降っていた雨が止みました。「発掘を始めます」の声と同時に「やったー」と歓声が上がりました。

8月5日、タイムスリップ探検隊での一こまです。今年は、飛騨古川町、太江遺跡が会場でした。シャーシャーと蝉の声が一段と激しくなり、地面からの照り返しも強くなりました。そんなことを全く意に介さず、子供たちのねじり鎌は動きます。古き時代の遺物を求めて、お父さんお母さんのねじり鎌も動きます。

発掘体験と同時に、家族のふれあいが深まった1日でした。

あの蝉の鳴き声から3か月、山の木々が紅葉から落葉へと姿を変えつつあります。今年度の飛騨地区の発掘は最終段階です。子供たちの笑顔、お礼の言葉を励みに、職員は調査に取り組んでいます。

センター日誌

- 6. 2 京都国立博物館尾野氏、穂積整理所視察
- 4 千葉県文化財センター上守氏、穂積整理所視察
- 5 丹生川村議員団、岩垣内遺跡視察
- 8 三重大名誉教授八賀氏他1名、太江遺跡・国府整理所指導
- 12 貝殻山資料館野口氏、見晴台資料館伊藤氏他4名、塚奥山遺跡・岩井谷遺跡・揖斐川整理所視察
- 丹生川村文化財審議委員田口氏他1名、岩垣内遺跡視察
- 15 春日村教育長森氏他1名、岩井谷遺跡視察
- 16 NHK、太江遺跡取材
- 22 北飛ニュース、飛騨出張所にて太江遺跡を取材
- 25 美濃加茂市下米田小6年 針田遺跡で体験発掘
- 26 国府町教育長酒井氏、太江遺跡視察
- 7. 1 坂下町長小池氏他2名、ホヤの木古墳視察
- 長野県文化財審議委員樋口氏他3名、岩垣内遺跡視察
- 3 名古屋大教授渡辺氏他1名、穂積整理所指導
- 6 (財)岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞1-26-1へ移転開所
- 7 福井県金津町教委木下氏他2名、塚奥山遺跡視察
- 10 調査部研修会(飛騨出張所)
- 15 奈良大教授泉氏、塚奥山遺跡・揖斐川整理所指導
- 17 飛騨考古学会会長藤本氏、太江遺跡視察
- 18 岐阜県発掘調査報告会(各務原市視聴覚センター)
- 21 文化庁土肥氏他1名、国府整理所視察
- 24 千葉県文化財センター小笠原氏、三田洞整理所視察
- 8. 4 揖斐郡老人クラブ10名、塚奥山遺跡視察
- 北和中生徒、揖斐川整理所職場体験
- 5 春日小児童、岩井谷遺跡発掘体験
タイムスリップ探検隊(太江遺跡)
- 6 穂積中生徒、穂積整理所職場体験
- 7 南山大教授早川氏他2名、岩垣内遺跡・国府整理所指導
- 19 玉川文化財研究所河合氏、太江遺跡視察
- 21 北和中生徒、塚奥山遺跡職場体験
- 24 高山市教委岩田氏他1名、太江遺跡視察
- 25 (大垣)北小校下少年団、塚奥山遺跡体験発掘